

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.8.15/25 No. 82 連絡先 FAX 042-555-1911



## 2010年「核兵器のない世界」が見えてきた！

「原水爆禁止 2010 年世界大会」は、8 月 2 日国際会議から広島大会、長崎大会まで、8 日間にわたり開催されました。

核兵器廃絶を求めるニューヨーク行動は、市民社会の世論と行動が世界を動かすことを実感させました。NPT 再検討会議では、いくつかの核保有国が具体的な核廃絶の交渉開始や廃絶の期限設定を最終文書に盛り込むことに反対しました。しかし、27 カ国 74 人の海外代表が参加した原水爆禁止世界大会では、「核兵器廃絶条約の交渉開始」が合い言葉のように語られました。

広島の記念式典で潘基文(パン・ギムン)国連事務総長は「被爆者が生きている間に核兵器廃絶を実現できるよう」と訴えました。

## 原水爆禁止2010年国際会議 「宣言」を採択

国際会議では「核兵器のない平和で公正な世界」について活発な討論がおこなわれました。4 日、閉会総会で採択された「国際会議宣言」は、「『核兵器のない世界』が国際政治の明確な目標になった今、核兵器廃絶条約交渉のすみやかな開始を求める行動を」と呼びかけました。さらに「核抑止力」論が「核兵器のない世界」実現の最大の障害になっていると指摘し、核保有国とその「核の

傘」のもとにある同盟国に(核抑止力論)と決別するよう迫る世論と運動が必要だと力説しています。普天間基地をはじめ在日米軍基地の再編・強化に反対し撤去を求める運動への連帯と、広島・長崎の被爆者、世界の被爆者への支援強化を呼びかけました。(写真：世界大会のスナップ)

## 横田基地に飛来していたC17大型輸送機が アラスカで墜落 4人死亡

米アラスカ州アンカレジのエルメンドルフ米空軍基地で7月28日夜、空軍のC17輸送機が離陸直後に墜落・炎上する事故があり、乗員4人全員が死亡しました。同機は、7月31日、8月1日に同基地で開催予定の航空ショーに備え、訓練飛行をしていました。

墜落した場所は林の中で、墜落機は木々をなぎ倒し、垂直尾翼以外はバラバラです。人口密集地にある横田基地で墜落事故が起きたら大惨事になるどころでした。

C17 大型輸送機は、横田基地に日常的に飛来しています。墜落した C17 輸送機(機体番号 00173)も、今年1月、横田に来ていたことが確認されています。(写真：事故機と1番違いのC17)



## 終戦記念日、猛暑のなか横田基地の撤去を求める座り込み

(No. 82 の裏面)

8月15日(日)、福生のフレンドシップパークで、第17回横田基地の撤去を求める座り込み行動が猛暑のなか、45人が参加し行われました。

原水爆禁止世界大会平和大行進 富山ー広島コースの通し行進者、渡邊正郎さんからの報告がありました。

終戦記念日のこの日は、「おこりじぞう」や第二次世界大戦中に上野動物園で象を餓死させた実話を元にした「かわいそうなぞう」の絵本の読み聞かせがありました。

横田基地によく飛来してくる大型輸送機が、米アラスカ州のエルメンドルフ空軍基地で墜落・炎上し乗員4人が死亡した事故があったこと、横田基地でKC10 空中給油機に燃料を給油中に燃料漏れを起こしていたことなどが報告されました。10月9日に福生市民会館大ホールで行われる「沖縄とともに声をあげよう 横田基地もいらない 市民交流集会」への呼びかけも行われました。

スイカやコーヒーの接待もあり、暑さを吹き飛ばす「座り込み」でした。ご苦労様。

----- 絵本 おこりじぞう / 山口 勇子、沼田 曜一 他 -----

昔、日本が戦争をしていたころ、広島のある横丁にたっていたおじぞうさんは「うふふふ」と笑った顔をしていたので、笑い地蔵と呼ばれていた。

夏の暑いある朝、真っ青に晴れ上がった空に敵の飛行機が現れたかと想うと、街の真ん中に爆弾を投げつけた。太陽が落ちたような衝撃の後、すべてのものが吹き飛ばされ、目や耳がつぶれ体中やけどを負った人々が苦しそうに叫ぶ。

横丁のおじぞうさんも吹き飛ばされ、笑った顔だけが地面から覗いていた。垂れ下がった皮膚を引きずりながら逃げる人々、黒こげになって横たわる人々。そして、ひどいやけどを負った女の子がフラフラと近づき、おじぞうさんのところでバツタリと倒れてしまった。

笑ったおじぞうさんの顔を見て、母を思い出し「かあちゃーん。水がのみたいよー」という女の子。「みず…、みず…と声が弱弱しく消え入りそうになった時、おじぞうさんの顔が変わります。

仁王像のように恐ろしく怒った表情になったおじぞうさんの顔。

そして、クイツと見開いたおじぞうさんの目からボタボタと涙があふれ、女の子の口へ注がれて…。

### 武蔵村山市 米兵の子 ロープ事件「傷害と往来妨害の罪」第2回 公判

市道にロープを張りバイクの女性に重傷を負わせ、傷害と往来妨害の罪に問われた米兵の子(19)の第2回公判が8月9日、東京地裁立川支部(福崎伸一郎裁判長)でありました。

証人尋問には横田基地で看護師を務める母親が出廷。少年はよい子であり「一緒にいた仲間が適切でなかった」と、共犯の3人に巻き込まれたと語りました。親として子どもにどう接したか問われましたが、かみ合いませんでした。被害者には130万円を渡したと語りました。

被告人質問で、少年は自らロープを張ることを提案し、他の3人の少年・少女が賛成したことを認め、「被害者の方に申し訳ない。あの日をやり直せたらどれだけいいか」と述べました。少年は「バイクは止まると思った。誰も傷つけるつもりはなかった」と証言しました。少年は米軍に入るのを楽しみにしており、有罪になると、それが難しくなることも語りました。

弁護側は4人のうち少年だけが起訴されたことを「違法」と主張し、公訴棄却の判決などを求めています。第3回公判は9月27日(月)午前10時から東京地裁立川支部で行われます。

